

# 東田中下中条線、川南線、米子南線などが復活

## 市議会総務常任委員会で市道などの整備計画を市が公表

上越市は10月27日の市議会総務常任委員会で市の第4次行政改革推進計画（案）、公の施設の再配置計画（これら2つの計画は平成26年度までの計画）、財政計画、定員適正化計画、道路・学校など10分野の整備計画（いずれも平成32年度までの計画）を明らかにしました。

このなかで注目されたことのひとつは、市が昨年度に取り組んだ事務事業の総ざらいで「廃止」または「一部廃止」と評価された市道路線のうち24路線について、総ざらい前の計画が復活したことです。いずれも整備計画の優先度

を決める作業の中で決まりました。これらの路線については、地元町内会などから継続要望が強かっただけに、復活を歓迎する声が上がっています。

### 総合事務所職員、調理員などを大幅に削減する計画打ち出す

一方、各計画には問題点も少なくありません。例えば市の定員適正化計画を例に見てみましょう。職員総数を今年4月1日現在の2020人を平成32年度までに1790人に減らす計画となっています。

そのため、総合事務所の職員数については約50人減らすということです。こんなことで、災

害等に  
キチン  
と対応  
できる  
ので  
しょう  
か。学  
校給食  
調理員  
につき  
ても業務の委託化などを進め、約50人削減するとしていきます。そのほか、学校用務員は臨時職員に移行させ、約35人削減する計画となっています。



【キッコウハグマ】キク科の多年草。漢字では亀甲白熊と書きます。山すそに咲く小さな白い花です。いまが花どきです。

組織機構の見直しについても具体的な提案がされています。「持続的・安定的な市民サービスの提供」などを理由に、木田庁舎・総合事務所のあり方について基本方針が明らかにされました。

担当の部課長の説明によると、平成24年度に大島区、浦川原区、安塚区の職員のうち、産業建設グループ職員を浦川原区に集め、ここを基幹的総合事務所にして試行するといいます。翌年度はさらに他の専門職員（保健師など）を試行の対象に加えるとのこととです。そして平成26年度にはモデル案を検証し、モデル地区の拡大準備に入るというのです。

このモデル地区は13区全域に広げるのではなく、一部の区では、木田庁舎への事務事業の集約が行われるようです。総務常任委員会のなかでは、私をはじめ何人かの議員が、今回の組織機構の見直しが過疎化に拍車をかけ、市民の暮らしを守れなくなると厳しく指摘しました。（写真は総務常任委員会での質問風景。立っているのは私です。）

### 事務事業の総ざらいで「廃止」または「一部廃止」と評価された路線で復活する路線

工種	総ざらい評価	市道名	区名
道路築造	一部廃止	大湯21号線他	大湯区
	一部廃止	古戦場線	吉川区
	一部廃止	石谷村中線	吉川区
	一部廃止	赤沢線	吉川区
	一部廃止	堂山線	板倉区
	廃止	川南線	浦川原区
	廃止	東田中下中条線	吉川区
	廃止	下沢田西沖線	板倉区
舗装改築	一部廃止	大賀線	吉川区
	廃止	三ツ屋浜村中2号線	柿崎区
	廃止	米子南線	三和区
	廃止	神田南新田西線	三和区
	廃止	神田東坪線	三和区
歩道築造	一部廃止	板倉中央線	板倉区
	一部廃止	長塚稲増線	板倉区
	一部廃止	今保北代線	三和区
	廃止	役場古町線	安塚区
	廃止	田井線	板倉区
	廃止	里五十公野線	三和区
	廃止	牛町鴨井線	三和区
	廃止	野岡木線	三和区
	廃止	東中学校線	合併前上越市
側溝改良	一部廃止	多能池線	三和区
	廃止	藤ノ木線	柿崎区



吉川区文化展の会場に入ってもまもなく、私は一人の市民の作品の前で動けなくなりまし。その作品は今年の八月に亡くなったMさんのひょうたんを材料にした作品です。まさか、Mさんの作品に会場で出合えるとは思っていませんでした。

Mさんの作品は、ひょうたん作品がずらりと並んだテーブルのほぼ中央にありまして、きれいに色塗りされた六つのひょうたんが約一メートルの高さの木の枝に下げられていて、「無病(六瓢) 息災」という作品名がつけられていました。

ひょうたん作品というのはおもしろいもので、時々、作者自身の姿に見えることがあります。正面から作品をじっと見つめていたら、比較的背の高かったMさんがそこにおいて、「おや、橋爪さん、来てくんだったね。こんだ、おれもこっちに来て、おまんのちのお父さんともお茶飲みできるようなったすけ、いいやんべだわね」そう語りかけておられるように感じました。Mさんは、私の父とは酒づくりの仲間として親しく付き合っていた方でした。

ひょうたん教室にMさんが通うようになったのは昨年秋ごろからでした。ひょうたん教室の仲間だったKさんの話によると、特別、一生懸命やっていたひとりだったとい。毎年、ひょうたんの色塗りは一二月ころから始め、七回くらい色塗りを繰り返すのですが、Mさんは、真面目に参加し、色塗りを続けたということでした。そして、Mさんがこの作品を完成させたのは亡くなる半月くらい前だったとこのとです。

Mさんの作品には、教室の仲間からのメッセージが添えられていました。「Mさんはこの一年で種苗、育成そして細工と、ゼロからのスタートでした。老いても逞しい新人として期待していましたが、正直これだけの作品を生み出すとは驚きでした。皮肉にも表題とは裏腹に、急な病を得て早世されてしまいました。天国があるとしたら、みなさんの無病息災を願いながら見守って下さっていると思います。ひょうたん教室の仲間一同」。胸が熱くなりました。

文化展の会場には、写真、絵画、押し花、竹細工、編み物、パッチワーク、木工、陶芸などの作品がたくさん出品されていました。それぞれの分野には「これは見事だ」と思う作品がいくつもあります。なかには桐ダンスなどのように、職人がつくったような作品もありました。

一つひとつの作品をゆっくり観させていただき、最後のコーナーに近づいた時です。編み物の参考作品の隅のところに小さな手づくりの歌集が置いてありました。昨年の二月に亡くなったHさんの歌集です。Hさんは編み物教室のメンバーのひとりだったのでしょか、歌集と編み物が良い雰囲気です。手にとりて歌集を読ませてもらいました。

寝苦しく蹴飛ばされたり孫と添い寝の熱帯夜なるも  
旅先に求めし酒を貰い至福と夫口軽やかに

私は短歌に関してはまったくの素人ですが、お連れ合いや孫さんなど家族のことが  
じつに生き生きと歌われていると思えました。

文化展に出されるものはどの作品も、多くの人たちに観てもらいたいからこそ展示  
されます。そして観てもらおうことによって作品は輝きます。仲間や家族の手によって  
展示されたMさんやHさんの作品を観て、お二人の笑顔を思い出しました。

## 滋賀県旧余呉町などで中山間地対策を学ぶ



上越市議会中山間地対策特別委員会は先月の25日、26日と岡山市ならびに滋賀県長浜市を訪ね、現地で対策の実際を学びました。

このうち、長浜市は昨年1月1日に

周辺6町を編入合併したところ。編入された周辺部には中山間地域があって、集落の維持・強化対策や集落連携等に取り組んでいるというので余呉支所の幹部から説明してもらいました。

説明を聴いて、「えっ、こんなところもあったんだ」と驚いたのは、編入区域で「地域づくりプラン」が策定されていたことです。このプランは、長浜市総合計画の地域計画として位置づけられていました。計画期間は3年、ただし、地域特性に応じて、短縮または延長することもあるとい。上越市においては、第5次総合計画の見直しの時に、地域計画を策定すべきと主張したのですが、実現できないでいます。

余呉地域(旧余呉町)まちづくりプラン重点事業の

トップには克雪・利雪・親雪対策事業が掲げられていました。平場でも1~2メートル、山間部では3メートル以上降るとい。地域除雪作業委託、雪弱者世帯除雪支援に注目しました。2番目の重点事業は水源の里再生事業、昨日視察した岡山県と同じく、地域外からの集落応援活動のほか、コミュニティビジネス起業支援にも取り組んでいました。重点事業の中には山村文化等保存活用事業もあります。山村集落景観の保全や伝統的な祭りの保存などの視点は新鮮でした。

### 放射能汚染対策に強い関心

日本共産党議員団はいま、市内各地で議会報告会を開催しています。

私が担当する地域では、6月議会や9月議会でとりあげた水害対策や原子力災害対策などを中心に報告させていただいています。報告後の懇談は、どこでも活発で、放射能から子どもたちをどう守っていくか等の質問が相次いでいます。(写真は板倉区)

